

## 2 西洋思想の源流

### POINTS

#### ★1 古代ギリシアの思想

a. 哲学の誕生 神話(ミュトス)から哲学へ 哲学…ギリシア語で「フィロソフィア」＝「知を愛し求める」

■神話的世界観…世界の成り立ちや自然現象を神の営みとして説く ホメロス, ヘシオドスらの叙事詩

■自然哲学…自然の観察から理性的に万物の根源(アルケー)を探究＝「テオーリア(観想)」という思考態度

思想家と根源…タレス：水, ヘラクレイトス：火, エンペドクレス：四元素, デモクリトス：原子(アトム)など

■ソフィスト(知者)…人々に政治の知識や弁論術(説得術＝レトリケー)を説く職業教師

プロタゴラス…ソフィストの代表者 「人間は万物の尺度」＝相対主義

b. ソクラテス・プラトン・アリストテレス

	ソクラテス	プラトン	アリストテレス
人物	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフィストの相対主義を批判</li> <li>門答法によりアテネ市民を啓蒙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イデア論をもとに哲人政治の理想国家を構想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実主義の立場から人々とポリスの結び付きを考察＝「人間はポリスの動物」</li> </ul>
主な思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>「無知の自覚」→「汝自身を知れ」</li> <li>人間の徳＝魂の善さ→魂への配慮＝知徳合一・知行合一・福德一致</li> <li>「ただ生きるのではなく善く生きる」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イデア論…そのものがそのものである原型・真実在をイデアとよぶ</li> <li>魂の三分説…理性・気概・欲望の三部分が知恵・勇気・節制の徳を實現→全体として正義の徳＝四元徳→国家では統治者・防衛者・生産者に相当→統治者の徳は知恵→哲人政治</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イデア論批判…質料(ヒュレー)のなかに實現されるべき形相(エイドス)が内在</li> <li>知性的徳…知恵・思慮→観想的生活が理想</li> <li>性格的徳(倫理的徳・習性的徳)…正しい行為(＝多寡の中庸)の反復が性格に</li> <li>ポリスと市民の結合…正義(全体的正義と部分</li> </ul>

			的正義 [調整的正義と配分的正義] ) と友愛 (フイリア) →友愛の優位
--	--	--	---------------------------------------

- c. ヘレニズム時代の思想 ポリスの崩壊→個人の魂の自由・平安を求める
- エピクロス派…快楽主義 公共の生活を離れた集団生活のなかに魂の平安 (=アタラクシア) を求める
  - ストア派…禁欲主義 理性により欲望を抑制→情念 (パトス) に動かされない状態 (=アパテイア) が理想  
→世界市民 (コスモポリテース) 思想…理性を持つ者として人間はすべて平等→近代自然法思想に影響

## ★2 キリスト教

- a. 古代ユダヤ教 神とイスラエル人との契約に基づく宗教 特徴…律法主義・選民思想
- b. イエスの教え 律法 (トーラー) の内面化を重視→神への愛と隣人愛 無償・無差別の神の愛 (=アガペー) を説く
- c. キリスト教の成立と発展
- 原始キリスト教…イエスは救世主 (メシア) であるという信仰 ペテロを中心に教団・教会を組織  
パウロ…イエスの死を人々の原罪に対する贖罪と意義づけ 信仰・希望・愛を説く  
『新約聖書』…イエスと使徒の言行や書簡を結集
  - 教父哲学…教義の体系化→「父なる神と子なるイエスと聖霊とは一つ」という三位一体説など  
アウグスティヌス…信仰・希望・愛 (=キリスト教の三元徳) をギリシアの四元徳の上位に位置づけ
  - スコラ哲学…理性的真理と信仰上の真理をめぐる論争 両者はともに正しいとする二重真理説  
トマス=アキナス…信仰の優位を前提に理性と信仰を調和=二重真理説を克服

## ★3 イスラーム…『クルアーン』の教え

- イスラーム…唯一神アッラーに帰依 教典『クルアーン (コーラン) 』に基づく政教一致の共同体 (=ウンマ) を形成
- ムハンマド…啓示により預言者として活動 迫害を受けメディナに移住 (=聖遷) →メッカ奪回
- 六信五行…『クルアーン』に規定される信者の宗教的つとめ  
六信 (信仰の柱) …アッラー・天使・聖典・預言者・来世・天命 五行 (実践面の基準)

…信仰告白（シャハーダ）・礼拝（サラート）・断食（サウム）・喜捨（ザカート）・  
巡礼（ハッジ）

## STAGE A 用語チェック

### ★1 古代ギリシアの思想

- ① 自然現象や世界の成り立ちを神の営みとして説明する物語を何というか。
- ② 自然哲学者たちが探究した「ものの根源」をギリシア語で何というか。
- ③ 理性を働かせて事物の本質や根本原理を探究する態度を何というか。
- ④ 万物の根源を水とした自然哲学者は誰か。
- ⑤ 政治や裁判の場での有用な知識や弁論術を教える職業教師を何というか。
- ⑥ ソクラテスが知者との問答の末に得た自覚を何というか。
- ⑦ ソクラテスの説く、魂をできるだけ善くしようと心がけることを何というか。
- ⑧ 完全なものの世界を想定するプラトンの学説を何というか。
- ⑨ もともとイデア界に住んでいた人間が抱く、イデアへの憧れを何というか。
- ⑩ プラトンは魂の三部分のうち他の二つを統御する部分を何としたか。
- ⑪ 統治者が愛知者であるべきとする、プラトンの理想の政治を何というか。
- ⑫ アリストテレスは個々の事物に内在する本質を何とよんだか。
- ⑬ アリストテレスは事物をかたちづくる素材を何とよんだか。
- ⑭ 中庸をとる習慣が性格となることによって身に付く徳を何というか。
- ⑮ アリストテレスは、人間はどのような動物であると表現したか。
- ⑯ 市民が互いの幸福を願い、親しみ愛することを何というか。
- ⑰ エピクロス派が目指す魂の平安を何というか。
- ⑱ エピクロス派の生活信条はどのようなものか。
- ⑲ ストア派が理想とする、情念に動かされない魂の状態を何というか。
- ⑳ ストア派の説く、理性を持つ者はみな平等であるとする思想を何というか。

① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_

④ \_\_\_\_\_ ⑤ \_\_\_\_\_ ⑥ \_\_\_\_\_

⑦ \_\_\_\_\_ ⑧ \_\_\_\_\_ ⑨ \_\_\_\_\_

⑩ \_\_\_\_\_ ⑪ \_\_\_\_\_ ⑫ \_\_\_\_\_

⑬ \_\_\_\_\_ ⑭ \_\_\_\_\_ ⑮ \_\_\_\_\_

⑬

⑭

⑮

---

⑯

⑰

---

- ① 神話（ミュトス）
- ② アルケー
- ③ テオーリア（観想）
- ④ タレス
- ⑤ ソフィスト
- ⑥ 無知の知
- ⑦ 魂への配慮（魂の世話）
- ⑧ イデア論
- ⑨ エロース
- ⑩ 理性
- ⑪ 哲人政治
- ⑫ 形相（エイドス）
- ⑬ 質料（ヒュレー）
- ⑭ 性格的徳（倫理的徳・習性的徳）
- ⑮ ポリス的動物
- ⑯ 友愛（フィリア）
- ⑰ アタラクシア
- ⑱ 「隠れて生きよ」
- ⑲ アパテイア
- ⑳ 世界市民思想（世界市民主義）

## STAGE B 問題演習

### ★第2編・第2章 西洋思想の源流

10. 【哲学の誕生】 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

現代の高度に発達した科学・技術は、長い年月のなかで培われてきた人類の知恵の遺産である。エジプトやメソポタミアの実用的技術を学問にまで高めたのは、古代ギリシアであった。古代ギリシアのポリスは、それぞれ自分たちの守護神を持ち、ポリス間の対立や友好を反映しながら、神々の物語である(a)神話を生み出していった。そうしたなかで、( ① )の『イリアス』やヘシオドスの『神統記』は、多くのギリシア人に愛され、彼らに(b)共通の世界観・人生観を提供することになった。このように、神話はギリシア人にある種の価値観を提示したが、それを一層有効に成し遂げたのが、アイスキュロスやソフォクレスたちによって創作された悲劇である。それは、神話をベースに、すぐれた人間が神の意図によって悲運に見舞われていく物語をシナリオ化したもので、その上演を通して、ギリシアの人々は、愛や憎しみや怒りなどの(c)情念あるいは感情に共鳴しながら、人間や人生について思いを巡らせていったのである。

ところが、ギリシア本土がまだ神話的世界観を脱しきれないでいるころ、小アジアに( ② )学派とよばれる一群の思想家たちが登場してきた。彼らは、伝統に縛られない自由な発想によって、神々を持ち出すことなく世界を説明しようとしはじめた。その学問的態度は現代でも通じるものであり、現代の合理性追求、実験と観察、原理や法則の発見は、それぞれ【 】に該当している。そして、彼らが思索の対象としたものが、自然界の個別的な事象ではなく、根本的な原理・根源であったために、後世、イオニア地方にはじまる学問は、自然科学ではなく( ③ )とよばれることになったのである。その先駆者となったのは、アリストテレスが「哲学の祖」とよんだ( ④ )で、彼は万物の根源を「( ⑤ )」であると語っている。それは現代の我々から見ればあまりにも素朴で単純な見方ではあるが、これこそが現代科学にまでつながる学問の始まりだったのである。

問1 空欄( ① )～( ⑤ )に適する語句を答えよ。

問2 下線部(a)について、「神話」を意味するギリシア語をカタカナで答えよ。

問3 下線部(b)のなかには天地創造神話も含まれており、その神話は混沌状態から秩序立った世界が生まれ出たと語っているが、「秩序」を意味するギリシア語として正しいものを次から一つ選べ。

ア. カオス            イ. ノモス            ウ. ピュシス            エ. コスモス

問4 下線部(c)について、「情念」あるいは「感情」を意味するギリシア語をカタカナで答えよ。

問5 空欄【           】には三つの文章が入るが、その文章として適当でないものを次から一つ選べ。

- ア. 事物を冷静に眺め、直観的に真実を把握するテオーリアの態度
- イ. 個々の事象を実験によって確かめようとするエトスの態度
- ウ. ロゴスを信頼し、論理的に思索しようとする態度
- エ. 自然と事物をアルケーによって把握しようとする態度

問6 二重下線部に関して、次のA～Eの文章が説明している思想家として最も適当なものを下から一つずつ選べ。

- A. 土・水・火・空気といった要素が、愛と憎しみによって結合と分離を繰り返しながら、世界の諸事象や事物を成り立たせていると考えた。
- B. 肉体は魂の牢獄であり、その魂を浄化するためには、厳しい修行とともに、魂に調和をもたらす音楽と永遠の真理をもたらす数学も必要であると考えた。
- C. 内部に運動エネルギーを持ったこれ以上分割不可能な極微の原子が、空虚のなかを自由に動きながら分離と融合を繰り返しつつ、世界を構成していると考えた。
- D. この世は、永遠に生きる火としてとどまることなく変化を繰り返しながら、緊張と対立のなかで存在しつづけてきたし、今も未来も存在しつづけると考えた。
- E. 有るもののみが存在し、有らぬものは存在しないのだから、有るものが有らぬものになる変化はありえないと考えた。

- |             |              |            |
|-------------|--------------|------------|
| ア. エンペドクレス  | イ. ピタゴラス     | ウ. パルメニデス  |
| エ. アリストファネス | オ. デモクリトス    | カ. ヘラクレイトス |
| キ. ヒポクラテス   | ク. アナクシマン드로ス |            |

問1 ① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_

④ \_\_\_\_\_ ⑤ \_\_\_\_\_

問2 \_\_\_\_\_

問3 \_\_\_\_\_

問4 \_\_\_\_\_

問5 \_\_\_\_\_

問6 A \_\_\_\_\_ B \_\_\_\_\_ C \_\_\_\_\_

D \_\_\_\_\_ E \_\_\_\_\_

問1 ① ホメロス ② ミレトス ③ 自然哲学 ④ タレス⑤ 水

問2 ミュトス

問3 エ

問4 パトス

問5 イ

問6 A ア B イ C オ D カ E ウ



## STAGE C

### ★1 古代ギリシアの思想

(1) 初期ギリシアの自然哲学者たちの思想についての記述として最も適当なものを、次から一つ選べ。〔センター 03追試（倫理）〕

- ① 事物は神である「一者」を根源として、そこから流出によって派生的に生成したのであり、人間は実在界と感覚世界との中間に位置する。
- ② 事物は普遍的な理（ロゴス）に基づいて生成し、人間はこの理に従うことで情念に支配されない、理想の生き方を実現することができる。
- ③ 事物は質料に内在する固有の形相が現実化していくことによって生成するが、この世界それ自体は生成も消滅もせず、永遠に存続する。
- ④ 事物は多様な仕方でも生成するが、その根源には「空気」「水」といった構成元素が、本質において変わることのない原理として存在する。

---

④

(2) 古代ギリシア・ローマにおける哲学者についての記述として最も適当なものを、次から一つ選べ。〔センター 17本試（倫理）〕

- ① ヘラクレイトスは、万物の根源を火であるとしたうえで、「万物は流転する」と唱え、その絶えず変化する様子に法則性は認められず、調和した秩序は見せかけのものにすぎないと主張した。
  - ② パルメニデスは、論理的思考に基づいて、在るものは常に在ると説き、世界における変化や生成は見かけだけの現象にすぎず、存在するものはただ一つであって、生成も消滅もしないと主張した。
  - ③ プラトンは、この世に生まれた人間の魂を、感覚の世界に囚われ、アイデアを忘却してしまったものと考え、アイデアの世界はいかなる手段によっても知ることができないとする二世界説を唱えた。
  - ④ マルクス=アウレリウスは、ローマ皇帝であると同時に、自らも哲学を修め、この世の現象は原子の不規則な動きによって構成されているという原子論の考えを発展させた。
-

②

(3) 古代ギリシア・ローマでは欲望をめぐって様々な考察がなされてきた。その説明として最も適当なものを、次から一つ選べ。〔センター 12追試（倫理）〕

- ① ソクラテスは、魂のそなえるべき徳が何かを知れば、その知を利用して、手段を選ばずあらゆる欲望を満たすことができるので、徳の知を追い求めていくべきだと説いた。
- ② プラトンは、人間の魂の三部分を二頭の馬とその御者に譬え、欲望的部分が御者として、理性的部分と気概的部分をあらわす二頭の馬を導いていくという人間の自然本性の姿を描いた。
- ③ アリストテレスは、欲望や感情に関わる倫理的徳のみに従うことと、知性や思慮に関わる知性的徳のみに従うこととの両極端を避け、両者の間の中庸を選択するような性格を身につけるべきであると説いた。
- ④ エピクロスは、快樂が人間にとっての幸福であるとみなしたが、その快樂とは、自然で必要な欲望を節度ある仕方で満たし、身体の苦痛や魂の動揺から解放された状態のことであると考えた。

---

④

(4) よき生き方を追求したソクラテスは、自らに下された死刑判決を不当としながらも、脱獄の勧めを拒み、国家の法に従って刑を受け入れた。彼の考えとして最も適当なものを、次から一つ選べ。〔センター 16本試（倫理）〕

- ① 国家は、理性に従って人々が相互に結んだ社会契約のうえに成立している。それゆえ、国家の不当な決定にも従うことが市民のよき生き方である。
- ② たとえ判決が不当であるとしても、脱獄して国家に対し不正を働いてはならない。不正は、それをなす者自身にとって例外なく悪だからである。
- ③ 脱獄して不正な者と国家にみなされれば、ただ生きても、よく生きることはできない。人々に正しいと思われることが正義であり、善だからである。
- ④ 悪いことだと知りつつ脱獄するのは、国家に害をなす行為である。だが、人間の幸福にとって最も重要なのは、国家に配慮して生きることである。

---

②